

病害虫発生予察特殊報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

シタバニハゴロモの果樹園地での初確認について

- 1 病害虫名 シタバニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White)
- 2 対象作物 ブドウ
- 3 発生地域 富山市八尾地区
- 4 発生経過及び国内での確認状況
 - (1) 令和6年12月に、富山市八尾地内の露地栽培ブドウにおいて、ハゴロモ類（カメムシ目（半翅目））が多数寄生している様子が認められた。富山県農業研究所病理昆虫課において確認した結果、本県では令和2年に初めて砺波市内（住宅の壁面）で確認されたシタバニハゴロモであった（写真1、2）。

なお、現在、本種によりブドウの樹幹にすす病の発生が見られるが、枯死や果実への被害は確認されていない。
 - (2) 本種は中国本土、台湾、インドやベトナム原産の侵入害虫である。日本では、平成21年に石川県のニワウルシにおいて初めて発生が確認された。令和6年12月現在、富山県を含む11府県でブドウ、庭木、街路樹および樹林地において発生が確認されている。
- 5 形態および生態
 - (1) 成虫の体長は約2.5cmで、翅を広げた長さは約5cmである。前翅はクリーム色、後翅の半分は赤色で、いずれにも黒点が散在する。翅の色合いは、地域によって異なる場合がある。
 - (2) 本種は年1世代のみ発生する。繁殖は9月以降に行われ、卵は寄主の根際から枝先まで、広い範囲に産み付けられる。産み付けられた卵は、ワックス状の物質で覆われていることが多い（写真3）。卵のまま越冬し、翌年5月頃から幼虫が発生する。幼虫が成虫になるまでの期間は約70日で、7月頃から成虫が発生する。
 - (3) 広食性であり、70種以上の植物を寄主とすることが知られている。主な寄主植物はブドウ、ナシ、リンゴやウメなどの果樹、ニワウルシ、センダン、アカメガシワおよびサンショウ属などの庭木・街路樹である。

成虫は主に樹幹、幼虫は新梢部の枝や葉軸から樹液を吸汁し、植物の生育不良や枯死を引き起こす。加えて、大量の甘露（糖分を多く含んだ排泄物）を分泌することですす病を引き起こし、果実の汚れの原因となる。葉に多量のすす病が発生すると光合成が阻害されることがある。

6 防除対策

- (1) 令和6年12月現在、本種に対して登録のある農薬はない。
- (2) 主な寄主植物はブドウ、ナシ、リンゴ、ウメなどの果樹であることから、樹園地をよく見回り、産み付けられた卵塊を見つけた場合はそぎ落とす。卵塊は、ほ場外に持ち出し土中に埋めるか、袋に密閉したうえで処分するなど、適切に処理する。
また、成虫や幼虫は見つけ次第捕殺する。
- (3) 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネット等を設置し、侵入を防止する。



写真1 ブドウの樹幹上の
シタベニハゴロモ成虫



写真2 シタベニハゴロモ成虫



写真3 シタベニハゴロモ卵塊

富山県農林水産総合技術センター
農業研究所病理昆虫課
TEL 076-429-5249
FAX 076-429-7974